

## 第 3 回：Word での外国語文書作成・編集（1）

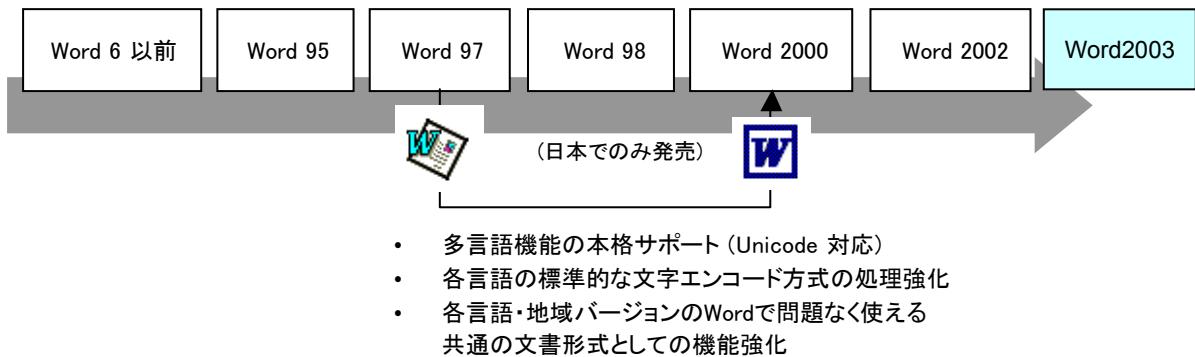
### 1. テキスト編集用ソフトウェア

- テキストエディタ：大学 PC で利用できるのは EmEditor (シェアウエア<sup>1</sup>)
  - シンプルなテキストの編集
  - 書式やレイアウト情報は保存されない
    - ❖ 「メモ帳」（Windows に標準で付属する簡易エディタ）  
[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]
    - ❖ EmEditor のようなより高機能なテキストエディタも数多く存在する
- ワープロ：大学 PC で利用できるのは Microsoft 社の Word2002 日本語版
  - レイアウトされた書式付きテキストの入力・編集
  - 高度なページレイアウト、画像・イラストや図表などの挿入
  - 独自のファイル形式（「Word 文書」ファイルは Word 専用！）

### 2. Word 2002 の外国語文書処理機能

- MS-Word：ワードプロセッサとして、現在最も普及しているアプリケーション
- Windows 2000 や Windows XP の多言語機能を完全に使うことができるほか、スペルチェックをはじめとする充実した多言語処理機能を備える
  1. 多言語テキストやさまざまな特殊記号を自由に入力・編集
  2. 入力されたテキストの言語を識別\*
  3. 充実したスペルチェック機能\*
  4. 日本語以外の言語のテキスト文書を作成\*

} \*次回以降、授業で実習
- Word の系譜



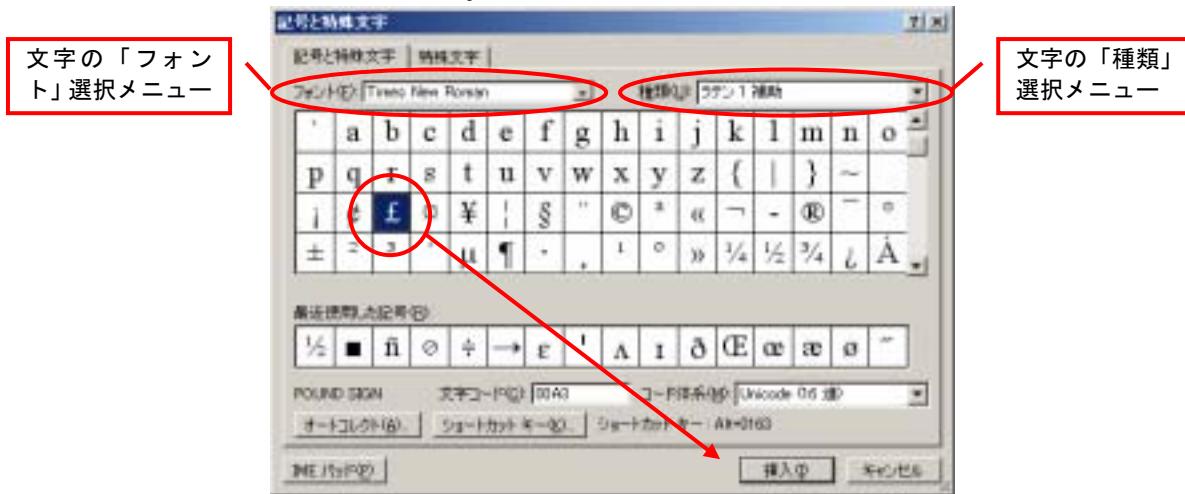
### 3. Word2002 での外国語入力のコツ（1）「記号と特殊文字」を使った入力

その言語でよく使う基本的な文字・記号は、その言語の入力ロケールでの入力方法を覚えるほうが効率よく入力作業ができる。しかし、利用頻度が比較的低く入力ロケールでは入

<sup>1</sup> シェアウエア shareware とは、インターネットなどからオンラインで入手できるソフトウェアのうち、一定の試用期間後に継続利用する場合に所定の代金を支払うもの。この授業でも後日利用する Unicode 対応テキストエディタ EmEditor はシェアウエアである（製品としても販売されている）。無料で利用できるソフトウェアをフリーウェア freeware という。

力しにくい文字や記号、さらには入力ロケールでは入力できない音声記号など特殊な文字・記号を手軽に入力するには、Word2002の文字挿入機能を使うのが便利である。

- 文字の挿入：メニューバーの[挿入]→[記号と特殊文字]→[記号と文字]タブ
  - 「フォント」選択メニューを使ってフォント（次回授業で説明する）を指定できる（指定したフォントで表示できる文字が一覧として現れる）。
  - 文字は種類ごとに大雑把に分類されて並んでいる<sup>2</sup>ので、「種類」選択メニューを使い、挿入したい文字がありそうな場所を探して文字を比較的簡単に見つけることができる。



実習、「記号と特殊文字」ツールを利用して以下の文書を作成してみよう。網掛けの文字は ASCII に含まれないので、通常の半角文字としては入力できない。「英語(英国)」の入力ロケールを使ってもよいが、今回は Word の「記号と特殊文字」の挿入機能を使おう。

- ポンド記号 £ は「記号と特殊文字」の「ラテン 1 補助」という箇所にある（アクセントつきアルファベットも同様）。「通貨記号」の箇所には含まれないので注意。
- ファイル名は **barnes.doc** とすること（このファイルはこれ以降の授業でも使用するので、必ず保存しておくこと）。
- 入力が済んだら、下線部分（書名）をイタリック体にしよう。

Julian Barnes (1989) A History of the World in 10 ½ Chapters. 改行  
 Paperback Version published by Picador, London.  
 Price: UK £6.99.  
 ISBN 0 330 31399 1  
 First published 1989 by Jonathan Cape.  
 Editorial Note  
 Julian Barnes has published seven novels, Metroland, Before She Met Me, Flaubert's Parrot, Staring at the Sun, A History of the World in 10 ½ Chapters, Talking It Over, and The Porcupine, and a collection of journalism, Letters From London 1990-1995: his work has been translated into more than twenty languages. In France he is the only writer to have won both the Prix Médicis (for Flaubert's Parrot) and the Prix Femina (for Talking It Over). In 1993 he was awarded the Shakespeare Prize by the FVS Foundation of Hamburg.

<sup>2</sup> 分類は Unicode に基づいている。Unicode で扱える文字の種類については後日改めて取り上げる。

## 4. 外国語テキストの印刷

多くのプリンタは、内部に自前のフォントを持っている。パソコン上のフォントの代わりにプリンタフォントを使うことで、印刷の際にプリンタに送るデータからフォント情報を省き、プリンタへの出力の時間を早くすることができる。

しかし、日本のプリンタのプリンタフォントは日本語フォントを搭載しているため、外国語テキストを印刷する場合、モニター上では正しく表示されているのに、印刷すると文字化けが起こったり、一部の文字が印字されない、といったトラブルが起こることがある。そこで、外国語や特殊なフォントを用いた文書を印刷するときには、プリンタフォントを利用しないよう、プリンタの設定を変えるとよい（印刷時間はフォント情報をプリンタに送る分長くかかる）。

以下は大学のネットワーク・プリンタでの設定変更例だが、同種の設定は、やり方の違いはあれ、ほとんどのプリンタで行うことができる<sup>3</sup>。

1. 印刷ダイアログを開き、FinePrint が選択されていることを確認し、「プロパティ」ボタンを押す。（図 1）
2. 「プロパティ」ボタンを押す。FinePrint<sup>4</sup> のプロパティダイアログが開く。
3. 「レイアウト」タブを開き、プリンタ名を確認したのち、「オプション」ボタンを押す（図 2）。
4. 印刷をおこなうプリンタのプロパティが表示される。「レイアウト」タブの「詳細設定」ボタンを押す（図 3）。
5. 「グラフィックス」の「True Type フォント」項目を「デバイスフォントと代替」から「ソフトフォントとしてダウンロード」に変更し、「OK」ボタンを押す（図 4）。
6. 印刷範囲を指定し、「OK」を押して印刷する。

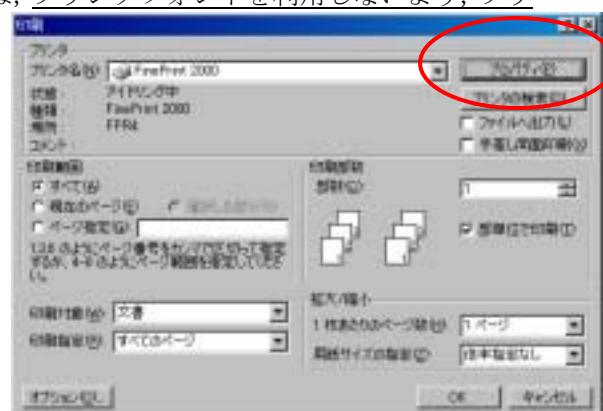


図 1

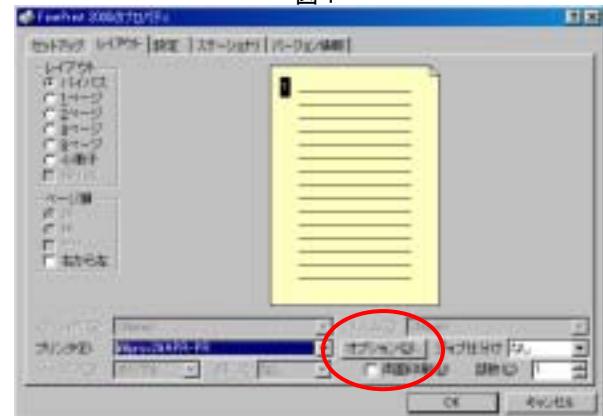


図 2

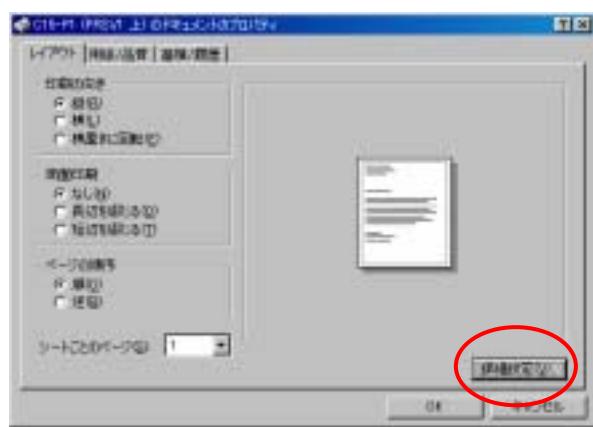


図 3

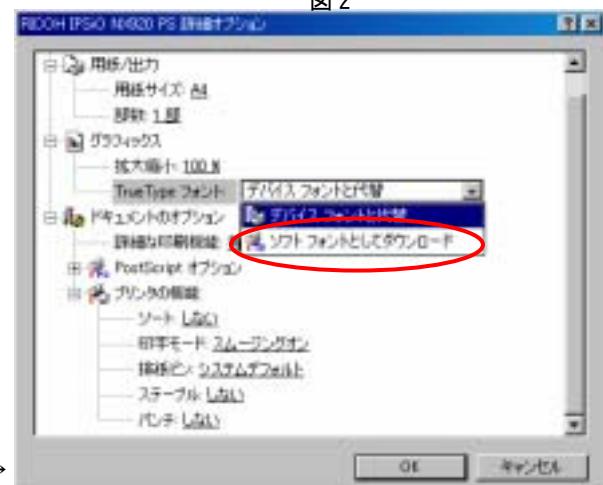


図 4 →

<sup>3</sup> ただし、「Windows 専用」と銘打たれたプリンタはプリンタフォントを搭載していないことがある。この場合フォントのデータは常にパソコンから送られ、フォントの設定のオプションがない。

<sup>4</sup> FinePrint は大学 PC で使われている印刷ユーティリティで、プリンタとパソコンのデータのやり取りを仲立ちしてくれる（通常のパソコンでは「印刷」ダイアログでプリンタを直接指定して印刷する）。